子どもが主役のまちづくり
～私たちがあの子にできること～
と
市民ワークショップ開催結果

1. 目的

（1）困難を抱える子ども・家庭に関する共通認識の醸成
（2）計画を策定するに当たり、協同のあり方や役割分担のかたちを探る
（3）困難を抱える子ども・家庭に関連する地域活動の活性化
（4）社会資源調査

2. 開催日時・開催場所

- ワークショップは市内３ケ所・全３回実施
- ワークショップは全体で３時間の構成
- ワークショップやシンポジウムの終了後に、参加者の名刺交換や雑談タイムなど、横のつながりをつくった

回	開催日	開催時間	会場	参加人数
第１回 WS	8 月 3 日（土）	9：30～12：30	湘南台公民館ホール	13 名
第２回 WS	8 月 10 日（土）	9：30～12：30	湘南大庭公民館体育館兼ホール	25 名
第３回 WS	8 月 24 日（土）	9：30～12：30	藤沢市役所３階 3-3、3-4 会議室	28 名

3. ワークショップ参加者・傍聴者（内訳）

・湘南台公民館　　参加者１３名
　　傍聴者６名

・湘南大庭公民館　参加者２５名
　　傍聴者１２名

・市役所本庁舎　　参加者２８名
　　傍聴者１１名

全参加者　６６名　全傍聴者　２９名

4. ワークショップ報告

第１部　子どもと子育て家庭の生活実態調査結果概要報告

スライドを投影し、昨秋に実施した子どもと子育て家庭の生活実態調査の結果の概要について報告をした。

《協力》株式会社　浜銀総合研究所様

第２部　意見交換会

株式会社　グッドイーティング様（包括連携事業者）の軽食・飲み物のご提供をいただき、模造紙に問のキーワードの文言を記入し、意見交換を行った。

《協力》藤沢市市民活動推進センター様
株式会社　グッドイーティング様

（１）自己紹介　自己紹介カードに記入後、参加者で輪を作り自己紹介を行った。

【参加者の立ち位置（自己紹介カードから）】

※全３回分

・子ども：０人
・子育て世代：２６人
・住民：３８人
・教育関係者：５人
・福祉関係者：９人
・地域団体：１２人
・子ども支援団体/NPO：２５人

【参加動機（一部抜粋）】

・子どもの状況を知りたい
・何かアクションを起こしたい、そのヒントを得たい
・居場所づくりの参考にしたい、南北（地域差）はあるのか知りたい
・行政や他の活動をしている方、市民の皆さんとつながりたい
・多様な意見を聞きたい
・生活実態調査に興味がある
・どんな子も親も暮らしやすいまちになってほしいと思ったため
・不登校でも生きやすい地域をつくるため

等の声が聞かれた（全３回・アンケート結果から）。

(２)ワークショップ　テーマにある気になる「あの子」に対して情報共有、それぞれ個人でできること・また連携してできる取組について、模造紙に付箋を貼り、意見交換をした。その後、各班により発表を行った。

《湘南台公民館》

模造紙に記載された文言（文字起こししたもの）

【Ａグループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？

①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか

<家庭>

◍小２(家に帰りたがらない、家にいつも１人でいる、夕方帰宅しても２１時過ぎまで１人で生活)

◍小３(ネグレクト、母親を泣きながら追いかけている、親からキツイ言葉をよく掛けられている)

◍(お母さん病気、最近児童養護施設から帰ってきた、お兄さんは刑務所にいる)

<学校>

◍中１(小６から不登校、学校になじめない、中学校の校則に不満、異学年との会話が苦手、よく嘘をつく、友達がいない)

<困りごと　地域>

遊び場に困っている

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<場所>

好きな時にいける場所、遊べる用地の確保、安心できる場所、上から目線の大人のいない場、ただボーっとできる居場所、自分らしくいられる場所、自転車で行かれるエリアに１つの居場所、冒険できる遊び場づくり、学校以外の子供同士の交流の場

<友達>

そばにいてくれる友達、気軽に話せる相手、自分らしくいられる相手

<つなぎ役>

食について気を配っていく、友達との関わりを見てあげる、子供を見守る大人同士のつながり

<大人>

大人が話に関われる、関われる大人がいることを知ってもらう、子どもの代弁ができる大人、その子の話をきいてあげる、いつでも待っている大人、ナナメの関係のある大人、困っていそうなら聞

いてみる、子どもにとって大人を求めているのに大学生などの元気のパワー

<本人>
失敗してもよい経験、お金のことが学べる経験、けがをしてもよい経験、ボーっとできる時間
<親へのサポートが必要>
話せる大人の育成、支援者がいるということの発信、親同士の交流場所、親へ声かけできる

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？

①　あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

<わたしにできること>
いつでも話をきいてあげる、一緒に遊んであげる、お母さんへあいさつ声がけ、お母さんと友達になる、大人もコミュニケーションを図る
<おとなにできること>
子供へも声掛け、真剣に話をきく、子ども同士のやりとりを見守る、冒険遊び場を運営する

②「あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

<行政>
市民協働センターに訴えていく、助成金を申請する
<実際のイベント>
ラジオ体操、花火大会、将棋やオセロ大会、遊びや学びのイベントを開く、全力で鬼ごっこ、宿題をみてあげる、みんなで一緒に食事をする(食や仲間を求めている人が多い、よい経験になる、保護者にも参加して欲しい

【B グループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？

①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか

<学習>
宿題をうつさせてほしいといつもいう子、友だちのテストをカンニングする子、学習の場がない
<生活習慣>
中学の制服が体にあっていない、学校を休みがち、弁当がコンビニ、カップラーメン等添加物だらけのものを食べている、柔軟剤の匂いでくさい
<親子>
親の時間に余裕がない、三つ子の親、父子家庭、いつも怒鳴られている
<困りごと　経済>

お金がない、大学に行けない

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<居場所>
子どもの居場所、学習支援、市役所一階のようなところ、公民館の空き部屋を自習室として貸し出す
<地域支援>
服のリサイクル、異年齢で集まれるところ、学校へ行かない子の話し相手、子ども食堂を広げる
家事サポート、日中の遊び相手になれる人、おせっかいおばさんの出現、子ども達への見守りの目を増やす、近所との関わり、学校と地域の連携の場
<公的支援>
双子、への公的サポート、無償化、給付金、相談できる場所、音楽が聴けるところ、映画が観られるところ

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？
① あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

<遊ぶ>
食事を一緒にする、一緒に遊ぶ、遊びの相手、遊びの見守り、登下校の見守り
<集まる>
本を読んであげる、週一回の短時間提供、山菜採り、ＢＢＱ
<相談>
親のお話(苦楽)をきいてあげる、他者がどう思っているか直接話す、相談者、機関を紹介する、話し相手になる

② あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

付箋なし

【C グループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？
① 「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか

具体的にはいない

<人間関係>
いじられやすい

<学校>
不登校、学校で問題をおこした(中学生・男女問題)、時々学校を休んだり家出したりする
<障害>
耳の聞こえない子がいる、知的能力が乏しく地域と連携している
<外国籍>
スリランカ人、日本語が話せない親族がいる、子が通訳の役目
<家庭・虐待>
お母さんから暴力を受けている、なかなか病院に連れて行ってもらえない、歯の治療が受けられない
新しいスパイクを買ってもらえない、破れた制服を着ている

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<研修>
先生への教育
<おせっかい>
話を聞く人、声をかける、相談にのってくれる人、親の代わりになる人、何でも話せる大学生のお兄さん、地域に駆け込み寺のようなところ、世話焼きおばさん
<居場所>
話を聞く場、相談しやすい場所、放課後の居場所、中高生の夜の居場所
<子どもへの支援・関わり>
プレッシャーをかけすぎない、役割を持たせる、身振り手振りを入れる、あいさつを教える、自尊心に気付かせる、日本語を教える、日本のルールを教える、ＳＯＳを出せる訓練
<保護者への働きかけ>
相談員、親に声をかけてみる、そのお母さんへの支援

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？
① あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

<居場所>
若者支援のユースワークにつなげる、「ご飯食べにおいで！」と声をかける
<子どもへの支援>
話を聞いてあげる時間をつくる、家族の話をきく、勉強を教える、いっしょに遊ぶ、声をかける(顔をつなぐ)、ボランティア、子どもの能力を高める手伝い
<保護者支援・地域との関わり>
家庭訪問をする、親に声を掛ける(ＳＯＳを出しやすい環境づくり、お母さんの側の話し相手

になる(心が豊かになるように)、家族への家事手伝い、人と人をつなぐ、支援情報、積極的なイベントへの参加依頼

<情報共有>
学校との連携、親同士　先生とチームになる

②「あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

付箋なし

発表

【A グループ】
メンバー構成が、居場所づくりの方が半分、それ以外の方が半分の構成でした。あの子の状況では、親へのサポートが必要だったり、家庭・学校で孤立していたり、地域で遊び場がなかったり、ということで問題点が大きく３つに分かれているのかな、という話が出ました。その後のどのようなサポートづくりが大切かについては、居場所づくり、友達が重要、あとは大人と子どものつなぎ役、あとは大人のサポートが必要、という話が出ました。あと、私たちが今できることは？という問いは、支援をしている方の話では食事をみんなで食べる、ということと一緒に作る工程を楽しみにしている、という話もありました。それ以外にも、お風呂体験とかができれば、仲間づくりができるし、体もきれいになるし、といった話も出ました。

【B グループ】
問１に関しては学習、生活習慣、親子関係、経済的に困っているという４つのカテゴリーに分けました。学習は居場所づくり、生活習慣・親子関係では地域づくり、経済的には公的支援が大切かな、と話しがありました。問２は、食事を一緒に作る、遊ぶそういったところから、まず信頼関係を築くために、イベントを通して話し相手になり、機関につなげていったらいいな、と話が出ました。

【C グループ】
問１①ですが、人間関係の問題、学校の問題、障がいの問題、外国籍の問題、家庭の問題、経済的な問題が出ました。②のところは、保護者への働きかけ、子どもへの働きかけ、居場所づくり、地域のおっせっかいな人が必要なのではないか、と話しが出ました。あと、学校の先生は関わりが多いので、先生への研修ができれば、との話が出てきました。問２①では、居場所づくり、保護者・子どもへの支援、地域や学校の情報共有が必要なのでは、と話しが出ました。そこから②の孤立しないような場所は必要だとは思いますが、いきなり相談とかはできないので、声をかけたり顔見知りになることで、まず信頼関係を築くこと、居場所を用意しておくこと、どちらが先になっても良いと思いますが、これが重要だと思います。また、支援があることを知らない情報の貧困みたいなこともあるので、情報を持っている人が

持っていない人に伝えていくためにも、支援先が分散しないで皆が同じ情報を１つ持っていて、どこかに行けば話が分かる、地域や行政の連携が大事なんじゃないか、という話になりました。

《湘南大庭公民館》

模造紙に記載された文言（文字起こししたもの）

【A グループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？

①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか？

<子どもの状況>

顔つきや表情が夏休みに変わった、精神的に不安定、友達がいない、いつも午前に来る、勉強を見てくれる人が周りにいない、頼れる人が周りにいない、ソファに寝ている、学校に行っていない

<家庭の環境>

共働きの家庭で子どもが生まれたばかり、親が外国にルーツがある、子どもに生活習慣が身についていない、両親共に障がい者で子どもがお風呂になかなか入れていない、身の回りの世話をしてもらっていない、朝食を食べていない、シングル家庭で母親が鬱で子どもがネグレクト状態、ごはんを３食食べているのか？痩せている、家庭が不安定、家の中で話す時間があるのか？

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<声かけ　見守り>

大人の時間を作る為に子どもの面倒をみる、趣味の話を聞く、普段からのちょっとした声かけ、フリースペースでの見守り、理解してくれる人々、相談できる場があることを伝える、あなたの味方だよ

<社会環境　制度>

手厚い社会保障、多様な人々を認め合える社会環境

<居場所>

ホッとできる居場所、子どもがホッコリできる場、一緒に遊び過ごせる場所、子ども同士遊べる場の提供、食事を一緒にとる、おやつの提供、当事者同士でゆるく連帯できるコミュニティ

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？

①「あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

<支援体制>

多様なボランティア参加のよびかけ、子ども支援賛同者の声かけ

<気持ち　愛>

応援や見守り、その子のやりたいようにさせる、心掛けること、アンテナを張る、つなげること

<行動>

あいさつをする、声かけ、一言かける勇気

②「あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

<居場所づくり>

食事づくり、食事の提供、時々家庭に呼ぶ、夕方からの場所の提供、一緒に遊ぶ、
遊び相手になる、ゲーム教えて、話を聞く、学校家庭以外の相談、関係性ができたら相談にのる

【B グループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？

①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか？

<子ども>

友だちがいないようだ、親しげに大人に話しかけてくるが言葉遣いが乱暴、１７時のチャイムが鳴ってもなかなか家から帰ってくれない、すごく早く学校に向かって登校している子、中２から学校に行っていない、毎日学校に行っていない

<大人>

親から手をかけてもらえていない、夜ひとりの時がある、朝食がいただけない、ベトナム人の両親(子どもが外に出づらい)、母子家庭だが母の仕事の帰りが遅い、

<病気>

母(アルコール、精神疾患)のリストカット後の始末をさせられている→愛されている実感なし

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<人>

親の相談を聞いてくれる人、何でも相談ができるところ又は人、愛情深く接してくれる大人、「あの子」の親を支えてくれる人、近所での声掛け、話をする、家に来て学びの支援、声かけが出来る人、「一人ではないよ！」と安心させる大人がいること、家に来て食事づくり、アウトリーチの支援

<場所>

アウトリーチぐるぐる食堂、地域で気軽に立ち寄れる場所をつくる、公園等で遊ぶ機会をつくる、自宅でも学習進む、安心できる場所、居場所(朝～夜)、５時以降７時くらいまで遊べるところ、学校からつなぐところ

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？

①「あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

<大人>

足を運び会いに行く、気が付いたら行動する、笑顔で生きること、気になる「あの子」のことを一緒に考えてくれる人を増やす、大人笑顔でいること、大人も元気でいること、楽しそうにやる、話聞いてあげられる大人を増やす

<子>

支援対象は子ども、アウトリーチで保護者に電話してみる、つなげるよう声かけする、声をかけられる人を増やす、CSW を増やす、夜子どもを見てくれる、話しをちょっとでもきく

②「あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

<サポート支援、場>

安全サポーターになって声かけをする、子どもに目配り、学校での学習等の支援、安心できる場所

【C グループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？

①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか？

<生活からわかる「あの子」>

タバコのにおいがする、度々家出をする中学生のｋ君(お母さんから虐待をうけている？)、きちんと食事をとっていないと思われる男の子、シャーペンでなくえんぴつ

<子どもの状況>

歯磨きができてない、虫歯が多い、髪がボサボサ

<親の状況>

お母さんが聴覚障害

<コミュニケーション>

お友達とよくケンカをしている、「おはよう」の時の子どもの表情、ゲーム中の言葉が乱暴、じろじろ友達の動きをチェック

<子どもからのサイン>

あやまらない子、あやまれない子

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<人>

生活支援としてアイディアを提供する、話をきく、生活の仕方を雑談から伝達、思春期の子の居場所や相談(大学生などがいる)、ロールモデルになれるようルールを守る、学校内で雑談する大人の存在、おせっかいおばさん(朝ごはんやおにぎりなどの提供)

<空気感>

心の中を吐き出せる空気感、子どもの気持ちを考えて話し合いができる雰囲をつくる、信頼できる大人

<場所>

さまざまな人と交流がもてる場所、子ども食堂、夕方からの居場所

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？

①「あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

<聴く>

子どもの居場所を応援する、聴いてあげる、話を聞く、受け止める、子どもを信頼する、子どもを信頼する

<共有・支援>

他の大人につなげる

<声かけ>

子育て中のお母さんに「頑張ってるよね！」と声かけ、あいさつ、ほめる、大人になったらなにになりたいかきく、日頃から出会う子どもに声かけをする（ご苦労さま　頑張ったね！）、声をかける（給食は何食べた？）

<安心感>

そばにいる、聴いてほしそうな空気を感じる

<笑顔>

笑顔（ほほえみ）、明るい笑顔、一緒に遊ぶ

② あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

付箋なし

【Ｄグループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？

①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか？

<家庭の問題>

父子家庭、寝たきりの赤ちゃんをかかえた家、親からの暴力、親が家に帰ってこない、ヤングケアラー、兄弟の世話が忙しい、一日一食しか食べていない、家庭的な料理を食べられない

<経済的問題>

学費が払えていない

<学力の問題>

小学校からなかなか学校に行けていない、漢字が書けない、年齢相応の漢字が書けない、外国籍の子で日本語があまり理解できていない

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<家庭>

安心して子どもを預けられる場所、６時以降の子どもの居場所

<地域>

信頼できる大人、支援してくれる場所や団体があることを教えてくれる人、向こう三軒両隣、大人の目が日常的に届くよう、自分の孫のようにかわいがる、雰囲気づくり、子どもや親御さんの目線で

<学力>

個別の学習サポート、勉強を見てくれるひと、学校以外の学びの場

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？

①「あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

<子どもへのサポート>

話を聞く、声をかける、どの場面でも「あの子」に声かけをする、一緒に遊んであげる、語学交流、絵本も効果的

<家庭へのサポート>

家庭への働きかけ、母親との交流、信頼関係をつくる、「いつでも Line してね、会いに行くよ」親御さんともつながる、子と親それぞれの話を聞く、お互いに学ぶ機会の提供

②「あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

<地域>

「もしかしたら…」という気持ちをもつ、ひとりひとりの子どもを知る

【E グループ】

問１　あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？「あの子」はどのような状況にいますか？

①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？どんな困りごとがありますか？

<家>

ひとり親で父が出張の時一人で家にいる、夕方にお腹をすかせている、家に帰りたがらない、隣のアパートの子　学校に行く気配無し、洗濯物干していない、調理の音がしない

<不登校>

不登校の子がいる YouTube が好き、小６から学校に行ってない、中学校そして高校に行ってない

<学校>

学校が楽しくない、授業についていけない

②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？

<居場所づくり>

見守り、個別で話を聴く、一緒に遊ぶ、宿題をみてあげる、小さな成功体験を積む、ほめて認める、一人でない食事、話し相手、その子が自分らしくいられる場所、ひとり留守番の家庭へ訪問(夕食づくり見守り)、「してあげる」ではない子どもの関わり、学校との連携、公の場へ引き出す、勉

強や能力を教えてくれる、見てくれる

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？

①「あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？

②「あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取り組みとは？

<地域・体験>

田んぼに誘う、一緒に食事づくり、調理や掃除、夕飯のおかずを届ける

<学習>

宿題を一緒に、高校受験のサポート

<スポーツ>

野球選手やサッカー選手を呼ぶ、全力で鬼ごっこ、野球やサッカー、スポトレ

<ゲーム>

一緒にゲーム、ゲームを対戦できるようにする

<交流>

「おはよう」と声をかける、健康状態・発達状態をみる、できれば母親とも交流できたら良い

発表

【A グループ】

子どもの状況と家庭環境がすごく問題があるのではというところで、声掛け・見守りをしたらいいのではないかという意見が出ました。居場所も意見が出ました。社会環境として、もっとしっかりと社会環境の制度が大事だよね、という話もありました。その中から何ができるのか、ということで、ここでも居場所ということで出てきたので、継続的にいられる居場所、月に１回とかではなくてずっと開いているのが必要ではないか、ということです。そのためには、公と民の協力が大事になってくるということ、空き家の利用も考えられるよね、と話が出てきました。

【B グループ】

子どもの問題の背景に大人の問題があるということ、それがまずひとつと、人と場所、大きく分けました。人のところでは安心でき、行きやすい居場所がほしいということ。もうひとつは、ぐるぐる食堂は子ども食堂よりもいくつかのところを回って食の提供ができる、その場所に合わせて会話もできるという場所があるといいね、と話がでました。ここにあるように、相談に乗ってくれる人、家に来て学べたり遊べたりできる支援、ここに対してできる状況は大分違います。誰でもその場に行けるわけではないので、そういうアウトリーチも考えていかないといけないのでは、と思っています。夕方からの居場所を作る、ぐるぐる訪問、これが一番肝要なんじゃないかな、ということで意見がありました。これはできれば働いている世代よりも高齢者にやってもらう、子どもを守れる高齢者がいるまち、こういう風にできたらいいのでは、と思います。

【C グループ】

どんなあの子か、というのがみんなバラバラでした。でも一番多かったのが、生活から分かってくるんじゃないか、例えば歯を磨いていない子、ボサボサの髪型の子、そのような子どもたちの様子を見て、もっと大人が気づいてあげられたらいいんじゃないか、という話が出ました。

そしてどのようなことが求められているのか、という時に、人とコミュニケーションを取れる信頼感・共感を子ども達が感じてもらえるように、そして大人側も同じように感じられるように居場所の確保ですとか、コミュニケーションが取れる関係づくり、そして大人達のそういう心の準備が大事なのでは、という話が出ました。そして、笑顔で子ども達に安心感を与えるように声掛けをしていったらいいんじゃないかという話が出ました。挨拶だとか、今日一日頑張ったねとか、それは子ども達だけでなく、子育てをしている母親たちにもひとこと声をかける、そういうことができるといいのではないか、そこから具体的に話を聞いたり、何となく話をする空気感をつくる、そして最終的には行政や誰かと情報を共有することが必要だ、と話が出ました。

【D グループ】

気になるあの子のところでいきますと、家庭・経済・学力の問題があります。私たちにできることのところで、若者・学生・大人とかカテゴラリーで分けてしまうと違和感があります。子ども達も同じことで一人ひとり個性があって、一人の人間なので、カテゴリーとして分けてしまうと違和感があると思います。一人の人間として相手をすること、もしかしたらこういう状況にいるかもしれない、そういうことを想像しながら子どもに関わっていくことが大事なのかな、と思いました。

【E グループ】

不登校というのが一つのテーマとなっていて、小学校区につき一つ居場所を作ろう、という話がでました。子どもたちはそういうことを知らないので、どんどん知ってもらうことも大事だと思います。そこに大人も子どももいられるような場所、楽しく遊んだり地域行政も入る・・、そういった仕組みができればいいなぁと思いました。

《市役所本庁舎》

問１　あなたの身の回りに、気がかりな「あの子」はいますか？

①「あの子」はどのような状況ですか？

問２「あの子」のために、私たちが今できることは？

① 気になる「あの子」のために、「私たち」ができることとは？

② 「あの子」のために、「私たち」ができることとは？「わたし」にできることをもとに組み合わせを考えましょう。

模造紙に記載された文言（文字起こししたもの）

【Aグループ】

●ひとり親
　お母さん(シングル)がどうしているかよくわからない、お母さんの便利な子になっている、お母さんがいつも不在、夏休みのお昼はどうしていたのか？
⇒お母さんと話してみる、保護者と相談

●自己肯定感
　問題行動多め、仲間外れ、「やったことがないからやりたくない」、やりたいことがない
⇒失敗してもいいんだよ(心の安心)、評価をしない(受けとめる)、「そのままで素敵だよ」、
　早い段階(小さい子)でのアプローチ、自分の好きなことや関心のあることを話す

●居場所と大人との関係
　住まいが荒れている、学校に行きたいのに行けない、学校に来ない、ほとんどいつも駄菓子屋前の広場にいる、夜１０時にコンビニの近くを姉妹(小と幼)が歩いていた、最近居場所に来ていない子がいる、大人に気を使い過ぎている、大人の顔色を見過ぎている、大人を信じていない、暴力で表現してしまう
⇒名前を呼ぶ、「元気？」と声掛け、共に時間を“ゆるゆる”と過ごす、素敵な大人と出会える場、“好き”を見付けるきっかけづくり、愛情を表現する、“見守っている”視線を向ける、いわゆる“立派”な大人にみせない、遊びには手を抜かない、歌を教える、話を聞く,聞いてみる、一歩引いて関わる、一緒にやる、町内会の存在、居場所(たまり場)の提供、自然に子供が集まれる場所(空き家)の提供、子どもを中心に楽しい活動

【Bグループ】

●孤独
　一人で遊んでいる子、多動の子、笑顔がない、来ても友達の輪に入れない子、小５の子で学校から帰ってもひとりでいることが多い
●居場所
　平日の日中に家の中にいる、昼間に出かける居場所がない、小学校にいっていない
●家庭
　髪が汚れて体も不衛生、いつも眠そう、給食の量が多い、服が小さい、持ち物がそろわない、親から怒られることが多い子がいる、いつもママに怒鳴られている、兄弟が多い、遅い時間にコンビニやスーパーにいる子、なかなか親と連絡がとれない

⇒<子への声掛けや見守り>
　そばで話をする(聞く)、声をかける、できていることをほめる、友達の中に一緒に入る(つなげる)、あいさつをする、温かくそっと見守る、ルールを決める

⇒<親への支援>

負担にならない程度の支援(服やおもちゃのおさがり)、広場でお母さんの代わりに周りが相手をしてあげる、他の子より事前にお知らせする、相談相手になってあげられるような感じを出す、お母さんに声をかける、叱ってしまうお母さんの話を聞いてみる

⇒<当事者の場所をつくる>

居場所をつくる、同じ空間で遊ぶ、親子の居場所に誘う

【Cグループ】

●母親の問題

若い母親が相談相手がいないと不安で子どもより自分を大切にする、ママが忙しそうで大変、母親が過干渉になってしまっている

⇒先ずは、母親にとっての居場所をつくる、母親同士のランチ会やお茶会、親同士で情報共有(Line 等)、母親の話を聞く、サークルに参加するよう促す、子供とのお出かけに誘ってみる、地域の行事に誘う、小さな困り事の相談に乗ったり手伝いをする

●子どもの問題

シングルマザー家庭の不登校の女の子、母親が病気で不登校の女の子、引っ越したばかりの不登校の子、ひとりでいる、嘘をつく、リストカットをする女の子、小学校の時から学校に行っていない、家から一歩も外にでない、具合が悪くて食事が苦手な子

⇒子供の話を聞く、一緒に遊ぶ、心からゆっくりできる居場所を作る(心の快復)

【Dグループ】

●不登校(学校)

小６から学校に行っていない、登校しようとするとお腹が痛くなる、パニック障害で学校に行けない(中３)、体調不良で高校に行けない、中学で不登校だけど高校には行きたい

●不登校(勉強)

勉強していない、夏休みの宿題ができない、授業についていけない

●不登校(生活)

人目を避けて生活、ネットの友達が一番気が合う、学校のある日の日中は外出しない、クラスにいくと自分でない自分になり疲れる、学校ではおとなしい、昼夜逆転、運動不足

●体調と生活習慣

朝と夜で別人、診断が下らず原因不明、起立性調節障害も併発、学校からなかなか家に帰らない、ご飯を時々食べていない

⇒サッカーを一緒にやる、学校以外の居場所を見せる、田んぼに誘う、鬼ごっこ全力で、マンガ部屋に誘う、一緒に将棋をする、置かれた状況を周囲に伝える、家に人を招き入れる、一緒にご飯を作り食べる、いろいろな学びの選択肢がある、不登校でも大丈夫だよと伝える、病院でアドバイスをもらうことを伝える、自分で解決する力があると信じて見守る、楽しく生きている姿を見せる、生きてるだけでＯＫだよというメッセージ、安心感を与える「大丈夫」という、問題視したり心配しない、校則の不満をきく、当事者の話を聞き伝える、夏休みの宿題できなくても人生は困らないよとメッセージ、そっとしておく、宿題をみてあげる、

自分が元気で笑顔でいる、待つ、やりたいこと応援、病気ならきちんと治す、学校内に居場所を作る働きかけをする、多様な生き方を見せる、学校の先生に苦しさを理解してもらう手助けをする、多様な生き方を見せる、家の中にとじこもる子どものサポートは何かを考える、毎日新しい事(内容)を受け止める

【Eグループ】

●家庭・学校

ほぼ家から外に出ないで過ごしている,親に暴力をふるう、全てを親が決めている、リストカットしている、ＳＮＳで出会った人と会う、子どもの家で夏休みの終わりに顔色の悪い子がいた、子どもの家が開くのを毛布をまいて待っている子がいた、学校に行っていない、幼稚園で親と離れられない、「あの子」はいないのではなく見えていない、まだ自分が気付いていない問題があるのではないか

⇒一緒にごはんを食べる、食事つきで預かる、送迎をする、外遊びにつれていく、ＳＮＳで交流してみる、自分の子どもと遊ばせる、宿題を手伝う、キャッチボールをする、うちの息子と遊ばせる、家で預かる、仲間とあれやこれや考える、聞いた話から誰かに相談する、不登校の子の居場所づくり、学校と家庭の間に入る、家庭に出向いてお話をたくさんする、親に話を聞く、ほめる、ただ話をきく、本人に話を聞く、親への情報提供、共感する、ママ友に将来の不安や悩みを聞く、子どもをいっぱい抱きしめる、笑いかける、声をかける、専門家とつなぐ

【Fグループ】

●社会からの孤立を感じる家族

兄妹だけで遊んでいる、ひとりで遊んでいることが多い、いつも家の中だけで遊んでいる、いつもひとり

●不登校・行きしぶり

学校に行けていない、遅刻多い

●愛着不足を感じる行動

戦いごっこで手加減ができない、ひとのものを隠したりとったりする、やたらとおんぶや抱っこを求めてくる、やたら大声を出す

●子どものコミュニケーション力不足

年下の子としか遊ばない、学校でのコミュニケーション(友人大人)ができてなさそう

●親子のコミュニケーションに問題

親から大声でしかられてる、大人の顔色をうかがっている、親子の会話が少ない、根幹になるところだが、他者による介入が難しい

●生活環境(ケア不足)

コンビニに行く回数が多い

⇒〈子どもの居場所〉

一緒におやつを食べる、一緒に遊んであげる、子どもの話を真剣に聞いてあげる、子どもが興味ありそうな話をする、何かお手伝いを頼む、海を散歩する

⇒<子どもの暮らすご近所>

親との関係強化、親御さんへの声かけ、親御さんの話も聞いてあげる、親御さんへ支援提供情報を教える、挨拶、やさしい声掛け言葉かけ(いってらっしゃい・おかえりなさい・かぜひかないでね・すごいね・えらいね)

発表

【A グループ】

「ゆるくいこう（事業)」という名前にしました。大人がどれくらい魅力的なのか、その大人の姿を子どもたちは見ているということで、こうしなきゃいけない、ということが先行しているので、そうじゃない、もっとゆるくいこうということです。社会・空間・仲間が今、余裕がありません。キーワードとしては「ゆるいつながり」ということを入れて、子どもを中心に人が集まれる、例えば空き家を使うとか、そういったことで、何かしてあげるのではなく、そっと一緒にいる、そんな場が重要なんじゃないかな、という話がでました。隣のおじいさんが声をかけると不信だと思われてしまうこと、おじさんが声をかけると学校へ連絡がいってしまうことがある、ということが問題で、市に頼れるところもあるが、もっと社会自体がゆるくなっていく姿勢が大事なのでは、と話が出ました。

【B グループ】

安心できる居場所が大きなテーマとなりました。不登校の子も元気に通えている子も、みんな好きなことをしていいんじゃないか、という風潮を藤沢市全体で浸透させたらいいんじゃないか、と話が出ました。それは学校の図書室を居場所にしたり、寺子屋、畑、家も居場所なんだよ、と不登校の子どもだけではなく、お母さんや頑張って学校に行っている子もみんなに伝えないと、行ってない子だけいいことになってしまうので、みんながもっと問題を受け止めて親もみんな自由にいられる居場所が藤沢市にあればいいな、と話になりました。

【C グループ】

私たちは、「母親を元気にするプロジェクト」を考えました。子どもがうそをついているとか、一人でいるとか色々な心配がありましたが、根本的な問題で、母親が元気がないとそれが子どもに影響してしまう、そんなところからこのプロジェクトとなりました。今回のワークショップでは、母親世代とシニア世代が一緒になることができ、色々情報交換ができて良かったです。こういう風に世代が違っても色々情報交換ができる場があると良いと思います。

【D グループ】

「あの子のために親と子どもの居場所を作る事業　ホップ・ステップ・ジャンプ」というのを企画しました。困難を課題がある子は、孤立・孤独・居場所がないとか何か分断されたイメージがわきました。その中で私たちが何ができるかといったら、声をかける、ホップ・・・、挨拶をするそっと見守る、そんな風にして、あなたがいるのを知っているよ、と伝えたいと思います。その次、ステップ。やがてその親御さんと信頼関係ができたら、相談できるよ、

とかお話聞くよ、とかそんなことができたらいいな、ということです。でも本当に欲しいのは居場所です、不登校・貧困・子どもの発達の問題・・・、相談できる場所として段階を踏んでホップ・ステップ・ジャンプできたらいいな、と思います。

【E グループ】
私たちは「見える化事業」ということでタイトルづけをしました。私たちが気づいていないことを考えましょう、ということでみんなで解決しましょう、ということです。例えば、市で今回のアンケートを作り、それを支援者が見て、そして支援者が集まれるところを作りましょう、色々な課題を抱えた方に発信していきましょう、という話になりました。

【F グループ】
場所によってどういう関りができるか、と話になりました。積極的にあいさつをすることが一番簡単で、でも最近そういうことが減ってきているんじゃないかな、と話が出ました。それで「勇気を持っておはよう　お帰り作戦」としました。

5. アンケートの意見

※全３回、参加者６６名中５３枚提出

〇第１部「実態調査結果概要報告」について、満足度はいかがですか。
その理由も合わせて教えてください。

① 大変満足　８人
② 満足　２６人
③ 普通　１６人
④ やや不満　３人
⑤ 不満　０人

〇第２部　ワークショップについて、満足度はいかがですが。
その理由も合わせて教えてください。

① 大変満足　１１人
③ 満足　２６人
④ 普通　１２人
⑤ やや不満　２人
⑤ 不満　０人

アンケート感想（一部抜粋）

・意見交換会の時間が少なかった（第１部・第２部共に）。
・色々な立場の方とお話できてよかった。

・職場で子どもの貧困や気になる様子は多々見聞きしている中で、今日の内容はほぼ考えていたことであり、本当は今日働く側の働き方改革や、子どもの個人情報保護の観点からなかなか居場所づくりや情報共有がうまくいかないので、それをどうするのか？話し合いたかったが、そこまでは話し合われず残念だった。
・行政、地域、支援者の情報共有・連携は必須だと思います。
・多様な主体がつながる仕組みをつくりたいです。
・藤沢の子どもの実情が分かりました。
・学校の教員の先生ともつながれるとうれしい。
・自分でできることも何かありそう、何かやりたいと思いました。今度の何かへのヒントの種になりそうです。
・「このまちで生まれて良かった」「このまちで育ってよかった」と思ってくれる、ふじさわのまちに！
・「子どもの支援」「居場所づくり」「情報共有」といっても具体的に推進できないのが現状である。そこをどう打破していくかを更に考えたい。
・せっかく大きくまとめられた資料を、もっと広く広報し、多くの家庭に届けられ活用していただけると良い。
・グループワークの中で、現場で悩みながら子どもと関わっている方々との交流ができました。とても深い視点での発言も多く、気付きが多々ありました。
・県外、地域外からも参加された方がいて、さまざまなアイディアが聞けた。また、“自分ごと”として、今何ができるのかを考える機会が得られたので、できることから実践していきたい。
・夕方からの子ども支援(食事、安心見守り)ができたらと思います。
・子どもだけの食事はさびしい。親にはなれないけれど、親の代わりはできます。
・子どもから高齢者が交流できる居場所づくり。
・“ぐるぐる”支援、声掛けの輪を広げる。
・各小学校の居場所づくり。
・空き家(対策)を、子ども対策に利用してほしい。
・色んな年代とお話しできたことがよかったです。
・組織など知ることができ、頼もしく感じました。
・まだまだ現状や、地域支援が知られていないと思います。
・参加者が楽しそうでした。
・参加する方たちが知り、学び、考え、話し合い、分かち合えた素晴らしい時間でした。
・市内や地区内にも多くの貧困されている子どもたちがいることに驚いた。
・ぜひ、中学生や高校生、大学生も参加してもらいたいと思いました。
・本当に支援が必要な方は「表」には出てこない。影にかくれて埋もれている方々を救えるような体制がつくれたら良いなと思います。
・（第１部で）胸が痛くなる結果がたくさんありましたが、知らなくてはいけないことだと思いました
・調査内容を簡潔にまとめてくださり、わかりやすかったです。
・新しい活動や場をつくるのも大切ですが、既存の場をより活性化し、情報を得やすくすることが大切だと思います。

・色々な立場の方と１つの課題に向けて話すことができてよかったです。自分が思いつかない考えが面白かったです。
・皆が話せるように、よく工夫されていたと思います。
・様々な立ち位置の方たちが集まって、あれやこれや頭をしぼって考えるのは楽しい作業でした。
・できれば行政の方々にも一市民一参加者としてワークショッにプ入っていただけたら良い時間になったのではないかと感じました。
・親子の居場所の必要性を感じた。それを実現するには行政だけでなく、市民の力も必要。
・「近所からあいさつをしていく」というような取組みが多く、今日からでも自分ができそうでワクワクしました。
・不登校当事者が多かったと思う。市としても積極的に取り組む課題であると感じた。
・母親を元気にするプロジェクト。
・こんな場が続くといいです。イギリスのリーズ市の取組が、コレクティブインパクト、多様な主体を連携した場として素敵だなと思うので、ぜひあんな形を目指して市民全体でよい社会を藤沢でつくっていけたらいいと思います。市のプロジェクトとして単発ではなくプロジェクトグループを組んで欲しい。参加したい。
・一般市民の方の参加少ない。NPO など関わりある方の経験からの話が多かった。一般市民がもっといると、地域活性で元気な藤沢市になると思う。
・表現は違うが思っていることは同じように感じました。

《参加者について》　※アンケート用紙から全３回、参加者６６名中５３枚提出

（１）　性別：

男性：１０　　女性：３５　　答えたくない：０
回答無し：８

（２）　年齢：

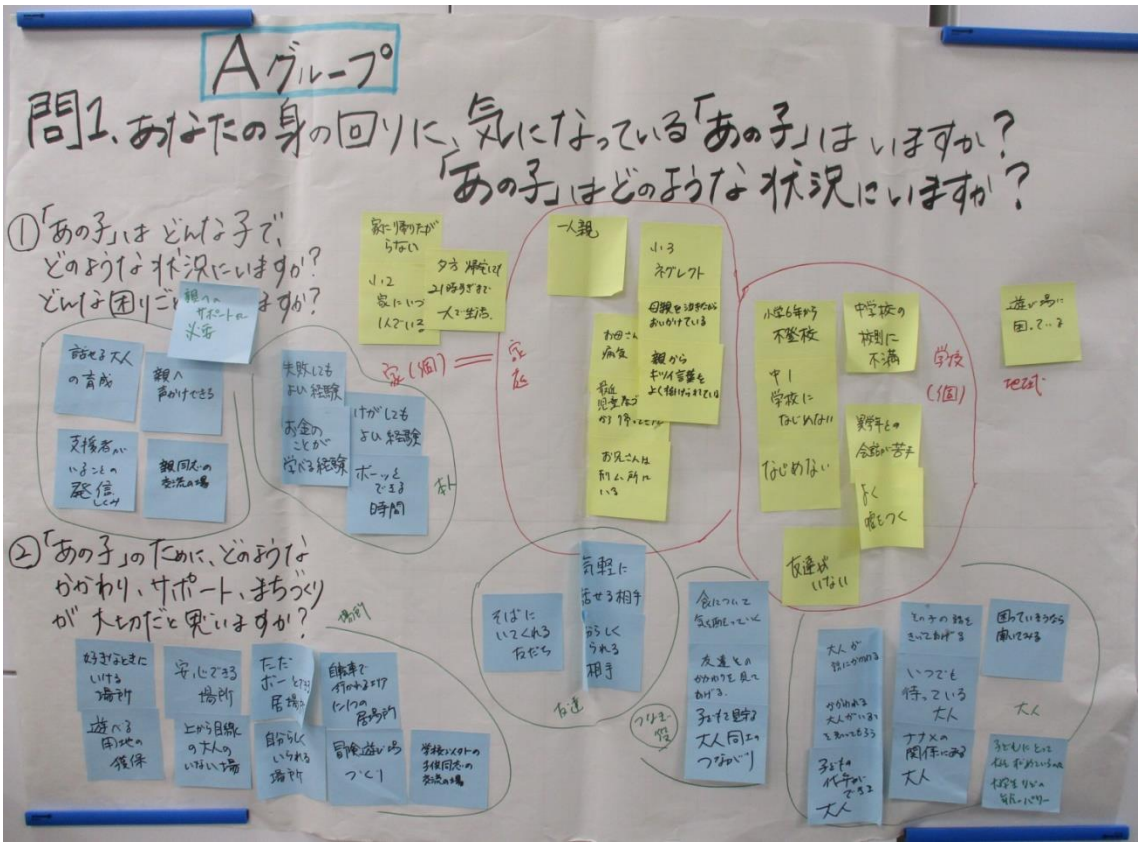
～２９歳：５　　３０～３９歳：２　　４０～４９歳：８
５０～５９歳：１８　　６０～６９歳：７　　７０歳～：６
回答無し：７

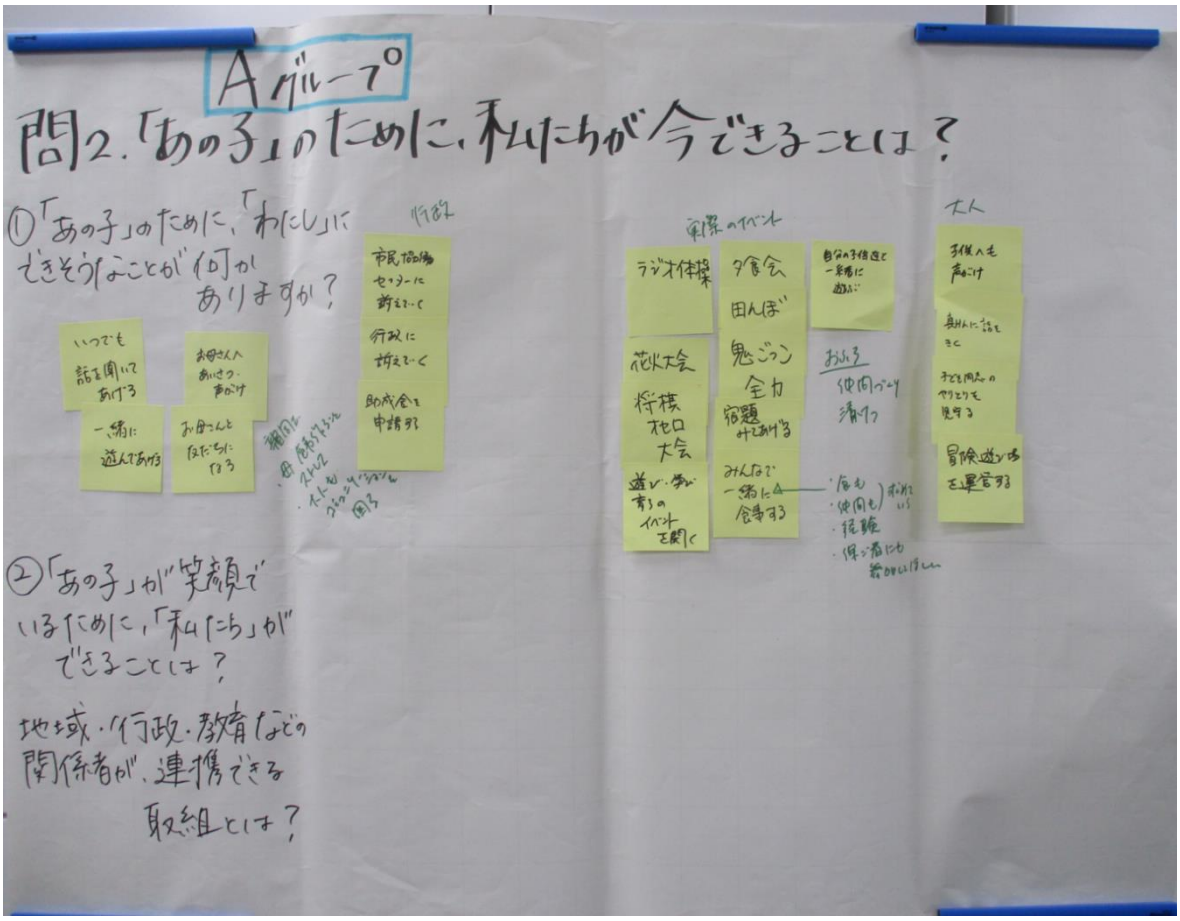
（３）　お住まいの地区：

六会　：７	片瀬　：０	明治　：０	御所見　：１
遠藤　：０	長後　：０	辻堂　：４	善行　：３
湘南大庭：９	湘南台　：１	鵠沼　：５	藤沢　：４
村岡　：６	藤沢市外：４		

回答無し：９

『ワークショップ写真・模造紙一例』


Aグループ
問1、あなたの身の回りに、気になっている「あの子」はいますか？
「あの子」はどのような状況にいますか？
①「あの子」はどんな子で、どのような状況にいますか？
どんな困りごとがありますか？
②「あの子」のために、どのようなかかわり、サポート、まちづくりが大切だと思いますか？
家族
学校
地域


Aグループ
問2.「あの子」のために、私たちが今できることは？
①「あの子」のために、「わたし」にできそうなことが何かありますか？
②「あの子」が笑顔でいるために、「私たち」ができることは？
地域・行政・教育などの関係者が、連携できる取組とは？
行政
家庭のイベント
大人